



ステキな人が集い、ステキな街になる

柏の葉スタイル News



Vol.7

UDCK ニュースレター 2009年11月号

千葉大学予防医学センター 救命AED講習プロジェクト 地域住民1万人に救命教育を！市民同士が命を支えあう



「家族や友人が突然心臓マヒで倒れてしまったら…」そんな万が一の時には、市民が適切な応急手当を施してお互いの命を救いあえる街をつくらうと、千葉大学予防医学センターが柏の葉地域で市民参加プロジェクトを開始しました。心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使い方を教える講習会を各所で開催。2012年3月までに1万人に参加してもらい、柏の葉地域の救急蘇生率を全国トップレベルに引き上げることを目指しています。

大切な人の命を救う両手

10月6日、柏市立田中中学校での救命AED講習の終了時、先生の挨拶で「みんなの両手は今、大切な人の命を救える手に生まれ変わりました」と話すと、生徒は皆、自信と責任感に満ちた大人っぽい表情で、自分の両手を見つめていました。

この日の講習は、田中中学の1年生全生徒、約140人が体育館に集まって参加。従来の救命教育は、1体の練習用人形を複数人で取り囲み、順番に心肺蘇生法を学ぶもの。それがここでは、140体もの人形が用意され、各生徒が自分専用の人形で繰り返し練習。

従来型の練習用人形は、全身型で1体が50～60万円もする高価なものでした。それが、ノルウェーで上半身型の人形が開発され、1体5千円程度と廉価になり、今回のような新しい救命教育の実施が可能となったのです。

講習は楽しく、実践は真剣に

この救命教育プログラムが新しいのは、練習人形だけではありません。講義や実習だけでなく、救命現場を再現した寸劇までも披露します。特筆すべきは、ユーモアのセンス。寸劇のストーリー設定や登場人物が工夫されており、思わず笑ってしまう場面も。

講習を受けた壇裏萌里さん(12)は「AEDのことは今まで知らなかったけど、楽しく学べて何度も練習したので、いざという時にも慌てずに行けると思う」と胸を張って話してくれました。子どもたちの心をしっかりとつかんでいたようです。

救命AED講習プロジェクトの中心人物であり、講師としても活躍する千葉大大学院生の増茂誠二さん(41)は「救命現場

は真剣に、でも講習は楽しく」と、その想いを語ります。実は増茂さん、救急隊員として約20年間の現場経験を有し、現在は国際医療福祉専門学校で救急救命学科の学科長を務める、救命教育のプロ。これまでの教育経験を生かして、講習時間もひと工夫しています。消防機関などが行う救命講習は、短くても3時間。それをここでは、受講対象に応じて集中力が続く長さ、学校の1時限の長さなど考慮し、独自プログラムとしてカスタマイズしているのです。



ノルウェー製の練習用人形。心肺蘇生法を学ぶために必要な上半身のみ形にすることで、低価格化が実現した。



講師が自ら役者となり、救命現場を再現した寸劇を披露。子どもたちは真剣な眼差しで見入っていた。

千葉大学予防医学センター 救命AED講習プロジェクト

救命率は1分ごとに約8%低下

救命活動は時間との勝負です。心臓が止まってから応急手当を行うまでの時間が1分遅れるごとに、救命率は約8%低下すると言われています。救急車が到着までの所要時間は全国平均で6分以上。現場に居合わせた人の一刻も早い応急手当が重要になります。

この対策のひとつとして、2004年より一般市民が使用できるようになったのが



ららぽーと柏の葉(左)と柏の葉キャンパス駅(右)に設置されたAED。ららぽーと柏の葉には各フロアに1台以上、計5台ものAEDが設置されている。

AED。突然の心停止など血液を流すポンプ機能を失った心臓に対し、電気ショックを与えて正常なリズムに戻す医療機器です。初めての人でも簡単に使えるように、心電図の自動解析や音声ガイドの機能がついています。現在では、駅や学校、公民館など幅広い場所に設置されており、柏市内では公共施設だけでも174台が置かれています。

不安と経験不足が救命の障害

そうはいつても、人命の懸かる救命処置は、やはり勇気がいるもの。東京消防庁が応急手当実施の阻害因子を調査したところ、「かえって悪化させてしまわないか心配」「何をしたらよいかわからない」といった不安の声が上位に並びました。

一般市民の不安と経験不足を解消するためにも、救命教育の必要性は高まっています。中学校・高校の学習指導要領でも保健体育の授業において「応急手当を取り扱い、実習を行うもの」と明記されて

います。しかし、教育現場では指導者不足や資器材不足などの理由から、十分な救命教育は進んでいません。

そこで、千葉大学予防医学センターでは救命に対する市民意識と救急蘇生率の向上を目的に、救命AED講習プロジェクトを立ち上げました。今後、柏市の消防局や教育委員会とも連携し、普及活動を広めていく計画です。

プロジェクトを主導する増茂さんは「学校に限らず、町会など住民組織や地元の企業・団体でも、喜んで講習に行きますよ」と、地域に呼びかけています。千葉大学予防医学センターがある柏の葉キャンパスでも、定期的に講習会を実施しており、次回は11月28日に開催する予定。皆さんの両手は「大切な人の命を救える手」ですか？

救命AED講習の依頼・参加などの問い合わせは、
電話 043・208・1600 (国際医療福祉専門学校・増茂さん)

キーパーソン・トーク

救急隊員として活動していた約20年間、人を救う喜び、やりがいを数多く経験してきました。一方で、救えなかった命に対して、当時の救急体制の限界や自分の無力感を悔やみ、眠れぬ夜が続く日もありました。2006年からは国際医療福祉専門学校救急救命学科長として、長年の現場経験を生かし、未来の救急救命士を育てるための「命の教育」に携わっています。

しかし近年に至っても、小学生が給食中にパンをのどにつまらせ、心肺停止状態になり死亡するなど、残念なニュースが後を絶ちません。私も同年代の子を持つ親であり、また小学校のPTA会長を務めていることもあり、これらは身近な問題として危機感を強く抱きました。救命処置は時間との戦い。

救急隊員が駆けつける前の適切な処置が重要であり、そのためには一般市民の力が必要なのです。

2008年には、全国救急救命士教育施設協議会のBLS(一次救命処置)普及啓発委員長として、学校などの教育現場をはじめ広く一般市民に、心肺蘇生法やAEDの利用を普及させる活動を始めました。同時に、医学研究の視点からも救命活動を見つめたいと考え、千葉大学大学院環境生命医学の博士課程に入りました。

学校で救命教育をする際、子ども達には「今日学んだことを、家に帰って親に教えてください」と伝えています。親子の活発なコミュニケーションを通じて、普及率を押し上げたいと考えているのです。いざという時に、住民同士が助け合えるコミュニティを創り上げ、柏の葉地区を全国に発信できる健康モデルタウンにしていきたいです。



増茂 誠二
国際医療福祉専門学校 救急救命学科 学科長
全国救急救命士教育施設協議会 BLS 普及啓発委員長
千葉大学大学院環境生命医学博士課程

□編集後記□

私も過去に、自動車運転免許の教習所で、心肺蘇生法を教わった記憶があります。それでも、いま隣の人が突然倒れたときに実践できるかという、自信がありません。今回の取材を通じて、一度ではなく何度も練習して自信をつけること、そして「いざという時には自分が助ける」という意識を持つことが重要なだと教わりました。(小林)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川
〒277-8518 千葉県柏市若柴字元堂178-3 柏の葉キャンパス駅前148街区3画地
TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB http://www.udck.jp

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK